

## 海外派遣実績報告書

氏名：稲見華恵

所属：総合研究大学院大学 物理科学研究科 宇宙科学専攻

海外派遣先国：米国

海外派遣先大学：カリフォルニア工科大学

海外派遣期間：2008/05/21 - 2008/07/31

報告年月日：2008年 8月 6日

### 1. 海外派遣先大学について

カリフォルニア工科大学(通称 Caltech)は、優秀な研究者が集まる名門大学である。カリフォルニア州パサデナ市にあり、西海岸のすばらしい天候(ほぼ毎日快晴&湿度が低め)のもとで研究することができる。集中して研究に勤しむ最高の環境であるといえる。

### 2. 海外派遣前の準備

入学当初から海外との共同研究を行ってきた。そのひとつが、今回海外派遣で携わった Z-Spec という、ミリ波広帯域分光装置である。国内では、指導教官と私しかこの研究に従事しておらず、観測結果を解析するツールの開発などの中心は米国カリフォルニア工科大学とコロラド大学にあった。しかし、博士論文でこのテーマについて書くためには、自らデータを解析し、科学的議論をしなければならない。その解析技術を獲得するためには、実際にそれを行っている共同研究者のもとで学ぶべきだと思い海外学生派遣に申請した。これが2年時の前半であった理由は、技術を獲得した後でそれを用いて実際に解析をし、天文学の知識と共に確実に身につけ、さらに科学的議論・論文にするためには約3年要すると考えたからである。上限55万円の支援で滞在できる最大の期間が2か月半であったので、上記のと通りの滞在期間とした。

受入先がいればビジターとして Caltech に滞在することは容易であることを知っていたので、共同研究者にその旨を伝え、ビジター用オフィスなどのアレンジをしてもらった。当然、会話はすべて英語であったが、苦手意識はないので苦ではなかった。専門分野の準備については、事前に共同研究者に目的を伝え、それを派遣期間中に達成するためのスケジュールを相談しながら組んだ。日本でできることはできるだけ終わらせ、派遣期間中は自ら立てたテーマに集中できるよう最善を尽くした。

また、90日以下の滞在だったのでビザは観光ビザ(=ビザなし)で入国したが、本来は学術目的のビザを取得した方が良いと思われる。

### 3. 海外派遣中の勉学・研究

夏休み中であったので、授業登録はしなかった。研究は、毎週1-2回共同研究者とミーティングを行い、徐々に解析を進めて行く方法であった。日本にいるときのやり方とそれほど変わりはない。

### 4. 海外派遣中に行った勉学・研究以外の活動、旅行、スポーツなど

旅行：ラスベガス(出発日の4日前に航空券&ホテルを取ったという突発旅行。

米国の“化”を痛感した旅であった)

スポーツ：友人とテニス

パーティー：お誘いを受けるたびにできるだけ参加し、たくさんの知り合いを作った友人をたくさん作る：最重要事項であると思う。パーティーに積極的に行ったり、ランチやディナーに誘ったり、また、誘われたら基本的には断らないようにしていた(知らない人の good-bye party にさえも参加…)。

#### 5. 海外派遣費用について

正直、55 万円で数ヶ月間、海外で過ごすことは非常に困難であると思う。アパートを借りるにも、短期間過ぎて断られる、または非常に高くつく。私の場合は、以前から知り合いであった Caltech の研究者に紹介してもらい、ルームシェアをして出費を抑えた。

#### 6. 海外派遣先での語学状況

すべて英語であった。学生派遣の前後で英語の語学試験を受験していないので、滞在期間中に具体的にどう変化したかはよく分からない。しかし、Caltech で知り合った友人たちには、来た当初よりもずっと上手になっていると言われた。あちらでは、友人たちに、英語の間違えを見つけたら正して欲しいと頼んでいた。積極的に多くの人と話をすることで英語力が伸びたのではないかと思う。

#### 7. 海外派遣先で困ったこと（もしあれば）

研究を進めるための命である、持参したノートパソコンが壊れたこと。しかし、Caltech で知り合った友人が助けてくれたことで、米国内に修理センターを見つけ速やかに発送し、完全に直った状態で手元に戻ってきた。また、手元にノートパソコンがなかった間は、デスクトップを借りて無事に作業を続けることができた。協力してくれた教授・友人方にはとても感謝している。

#### 8. 海外派遣を希望する後輩へアドバイス

自分にとって海外派遣が必要だと思ったら、まずチャレンジしてみるべきだと思う。語学や生活面で心配な点もたくさんあるかと思うが、きちんと周りの人に相談すれば協力してくれるはず。そうして、ひとつひとつ不安を消していけば自信もつき、海外でも立派に研究を進めることができると思う。また、派遣先では日本人とばかりではなく、世界中から集まってきた研究者と接点を持ち、人脈を広げると同時に、様々な世界観に触れることで更に視野が広がるはずである。